平成 29 年度第 2 回古賀市補助金審査委員会　会議録（要点筆記）

【会議の名称】　第 2 回古賀市補助金審査委員会
【日時・場所】　平成 29 年 6 月 9 日（金）　14 時 00 分～17 時 00 分
市役所第 1 庁舎第 2 委員会室
【主な議題】
1. 開会
2. 会議の公開について
3. 委員長あいさつ
4. （1）実績報告及び評価
①プレーパークの定期開催から常設に向けたプレーワーカーの育成事業
（特定非営利活動法人古賀新宮子ども劇場）
②生活者による地域密着・Ｗｅｂ連動型フリーペーパー発行事業
（古賀すたいる）
③定期演奏会（古賀市民オーケストラ）
④夏休みこども体験教室（特定非営利活動法人古賀市文化協会）
⑤古賀市「第九」演奏会（古賀市「第九」実行委員会）
⑥演劇ワークショップ（古賀市市民劇団ＤＡＩＣＯＯＮ）
5. その他
6. 閉会
【出席委員等の氏名】
委　員：宗像優委員長、今村晃章副委員長、小河武文委員、貞光紀美子委員、山﨑あづさ委員
事務局：星野孝一財政課長、内裕治財政係長、田中智実業務主査、大川宗春主任主事
関係課：（青少年育成課）桐原誠課長（経営企画課）北村俊明広報秘書係長（文化課）川原幸恵文化振興係長、田中音羽主任主事
【庶務担当部署名】
総務部　財政課　財政係

【委員に配布した資料の名称】

資料番号	名　称
1-2	実績報告書類及び実績評価書<6 月 9 日実施分>
2-2	古賀市公募型補助金実績評価票
参考	公募型補助金採択事業一覧

【会議の内容】

○会議の公開について

合議制の審査となるので、古賀市情報公開条例第 7 条第 4 号の公にすることにより、率直な意見の交換もしくは意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれがあるものと判断したことにより、非公開とする。

○実績報告及び評価

平成 28 年度実施の 15 事業のうち 6 事業の評価を行う。

①事　業　名：プレーパークの定期開催から常設に向けたプレーワーカーの育成事業
実施団体名：特定非営利活動法人古賀新宮子ども劇場
補助実績額：339,000 円（補助申請額：406,000 円）

＜質疑応答＞

（委員）　前回の質疑のうち、分かったことがあれば、回答願う。

→（青少年育成課）　研修については、プレーワーカー育成のため、子どもの居場所の大切さについて、大学教授による発達心理学等の子どもの育ちに関する講座及び子どもの権利について、ＬＧＢＴＱ当事者による性の多様性に関する講座を実施した。

プレーワーカーの実数については、現在は社会人になっている者を含む高校生 5 名及びスタッフ 10 名の計 15 名である。

参加費が無料である件に関しては、団体とも協議は行っているものの、参加費の徴収には至っていない。平成 29 年度の状況としては、エフコープやグリーンコープからの団体助成金を受け、事業に充てているとのことであった。その他にバザー等の売上げにより財源を捻出するなどして、参加費無料を継続したい意向のようだ。

＜委員のコメント＞

（委員）　講座の内容を聞くと、新たなプレーワーカーを育成するため入門編ではなく、専門性の高い印象である。育成されたプレーワーカーの実数としては、しっかり育っていると感じる。この人数がきちんと機能すれば、十分プレーパークは実施していけるの

ではないか。参加費については、助成金は単年度なので、将来的には自主財源の獲得が必須だと思うが、自主的な努力が見られる点は評価できる。プレーパーク自体は、どこも無料でやっているのではなく、保険代等として 100 円から 300 円程度徴収しているものもあるため、市の子育てサービスが無料である場合や近隣の自治体の状況等の影響はあったかもしれないが、参加費が徴収できなかった点は残念である。

（委員）　事業の内容は、よく理解できた。補助金は終了したので、今後の財源面が心配である。

（委員）　研修もしっかりと実施されており、意義としても事業は評価できる。子どもが対象なので、参加費をとりづらいのは理解できるが、保護者などの大人の参加もあることから、金銭的な援助の声かけにより、寄附収入が期待できるのではないか。

（委員）　事業の内容自体は、着実に実施されている印象である。団体として、無料でやるという信念のもとで実施されていることがわかった。プレーパークだけを実施している団体ではなく、団体への加入につなげる意図も考えられるので、団体として全体のなかで、財源確保の努力をしていくということであろう。

（委員）　参加費はとらないという方向性のもと、助成金を得たり、バザーを行ったりして財源を作る努力は見られる。助成金は期間が制限されていることもあり、長期的に事業を実施するためには、保険料だけでも実費負担してもらうことも必要ではないか。

（委員）　研修の内容からも分かるとおり、プレーワーカーには、専門的な知識が求められており、近隣のプレーパークでは、プレーワーカーはボランティアではなく有償で実施されている。どの程度プレーパークを展開するかにもよるが、人件費等の経費がかかることも念頭に置き、そのための財源をしっかりと考えておくことが必要である。

②事　業　名：生活者による地域密着・Ｗｅｂ連動型フリーペーパー発行事業
実施団体名：古賀すたいる
補助実績額：130,000 円（補助申請額：130,000 円）

＜質疑応答＞

（委員）　研修講師謝礼として、報償費が支出されているが、研修の内容はどのようなものか。

→（経営企画課）　色々なイベントにカメラマンに同行してもらい、写真の取り方やインスタグラムの発信の方法など、市民を交えた研修を 3 回実施した。

（委員）　フリーペーパーの発行が予定よりも少なかったのは、広告協賛費が取れなかった影響によるものか。

→（経営企画課）　公募型補助金事業として予定していた「せんきょ割」の事業について、市の受託事業として実施したことによるもの。広告協賛費については、「ハロウィン特集号」において、お菓子などの物品提供による協賛となったことが影響している。

（委員）　「ハロウィン特集号」以外で広告協賛収入がなかった要因は何か。

→（経営企画課）　第５号では、１枚の紙を折りこむものではなく、冊子の形状で発行したことにより、広告としてのクオリティの確保に不安があったため、広告をとっていないとのことである。広告収入は得られていないものの、今年度は特定健診に関する冊子発行に取り組んでおり、冊子発行のノウハウは蓄積されていると考える。

（委員）　前年度の評価で、成果を数値で表せるよう指摘していたものの、報告に見当たらないが、どう認識しているのか。

→（経営企画課）　団体が各種イベントを実施する際に、市の記者発表にも同席しており、これまでに 7 回ほど新聞に掲載された実績がある。それ以外にもテレビニュースにも取材されていることもあり、古賀市内外に古賀のアピールができていることが成果として挙げられる。また、商店街の空き店舗を活用して、子育て世代の女性の集まりや、起業支援も実施しており、参加者が増加傾向であることも成果の一つである。

＜委員のコメント＞

（委員）　計画時と実績において支出内容が異なることについては、計画の見込みが甘く、計画どおりに実施する意識が低いことが考えられる。一つ一つの取組はよいが、色々な取組が拡散しすぎて柱が見えない。徐々に公的な存在になりつつあり、社会的な自立を求められるところまできていると考えられるので、計画の見込みをしっかりすることに力点を置いたほうがよい。古賀市や団体をＰＲするために宣伝することは理解できるが、情報誌を発行する団体が、新聞やテレビなどのマスコミを使って拡げること自体は、評価が分かれるのではないか。情報誌として勝負できるようがんばっていただきたい。

（委員）　予算的な計画性が見られない。計画性をもって事業に臨んでもらいたい。また、事業の結果が見えにくいので、成果について、数値で表せるものを示してほしい。

（委員）　市との協同事業を実施していることもあり、技術的にも信頼度を上げてきていると思う。計画どおりに定期的に発行できる体制を確立させて、スケジュールを組んで確実に実施する意識付けをすることが必要である。団体としても市内に浸透してきていると思うので、継続して活動していただきたい。

（委員）　補助事業を開始するとともに団体として走り始めて、模索しながら色々な取組を実施しているところだと思うが、その時そのときの感覚で飛びついている印象である。単発的なものでは限界があるので、これまでに取り組んだ内容を集約し、団体としての立ち位置を確認し、どう情報発信をするのかの戦略を練っていくべき。方向性を定めて、計画的に着実に実施していくことを考えていただきたい。

（委員）　市とのコラボレーションもあり、新聞やテレビでも取り上げられ、古賀市での認知度も高まって、活動に広がりがでている印象である。また、成果報告書の記載事項を見ると、自己分析もできているので、定期的な発行ができていないなどの課題に対しては、しっかりと努力していただきたい。収入面では、広告料がしっかり取れる程度にクオリティの高い紙面づくりや成果については、効果を数値で示すことにも意識を持っ

ていただきたい。

（委員）　成果を数値で表す方法として、読者アンケートやモニター制度を導入してはどうか。また、市との共働ができているので、「けんしん割」で受診率がどの程度上がったかなど、行政側の変化をフィードバックしてもらうこともできるのではないか。

③事　業　名：定期演奏会 実施団体名：古賀市民オーケストラ 補助実績額：473,000 円（補助申請額：473,000 円）

＜質疑応答＞

（委員）　広告料について、計画どおりに収入できているが、金額の推移はどうなっているのか。また、寄付金は収入されていないのか。

→（事務局）　これまでの広告料の推移は、平成 26 年度の 6 枠のから 27 年度には 7 枠、28 年度には 10 枠と増加傾向である。

→（文化課）　会場に募金箱を置いて寄附を募っているようだが、収入はないようだ。

（委員）　アンケート結果を見ると、古賀市内の来場者が半数にも満たない状況である。受益者の半数以上が古賀市外であり、事業の効果が古賀市に還元されていない状況を担当課としてどう認識しているのか。

→（文化課）　音楽家の中では、市にオーケストラが存在すること自体が、文化度が高いとされており、市外からの来場者が多いことにつながっていると考えられる。また、市内の団員や来場者も増加傾向であり、団体としては事業を継続したい意向を持っている。

（委員）　入場者が年々増加しているが、どういう努力をされたのか。また、入場料について、市内外で差をつけてはいないのか。

→（文化課）　団員が大幅に増えたことに比例して、入場者が増えたものと認識している。また、入場料の市内外の価格差はない。

（委員）　参加者の情報源は、団員からの紹介が大半である。ポスターやチラシなどに経費を掛けている割には、少ないと感じる。広報の効果に関してどう認識しているのか。

→（文化課）　前年度の結果から、ポスターやチラシの効果が薄いことがわかり、当該年度は印刷にかかる経費を大幅に減額して執行している。

（委員）　一般会員の入場者が減っているのは、招待券を配布したことによる影響が考えられるが、今後も継続して配布するつもりなのか。

→（文化課）　前年度、新たに会員になり、アンケートに回答した方に招待券を配布したようだ。一般会員が増加傾向にあるなか、収入確保に逆行することになるため、注意を促した。今年度は招待券の配布は行っていないと聞いている。

（委員）　障がい者の来場がなかった点について、団体では原因分析はされているのか。また、担当課として、要因をどう考えているか。

→（文化課）　団体としては、ＰＲ不足などを要因とされているようだが、担当課として

は、オーケストラに対するニーズが高くないのではないかと考えている。

（委員）　事業の対象者に中高生や障がい者、高齢者を明示している意図は何か。

→（文化課）　中高生については、演奏を一緒にやらないかという学校への呼びかけを行っていること、高齢者については、日頃の活動において施設を訪問して、演奏会を開催していること、障害者については、是非来ていただきたいという思いがあることから、具体性を持たせるために明示していると考えられる

＜委員のコメント＞

（委員）　障がい者等が少ないことに関しては、ニーズを的確に捉えることが重要である。対象となる方の状態や状況によってニーズは異なるので、きちんと声を集め、その一つ一つに応えていく努力をすることが、文化度の向上につながるのではないか。今後の自立の面に関して、単にクオリティを上げて、市内以外からも多くの人を呼んで収入を上げることだけでなく、規模を縮小して自主財源で実施できる範囲で、様々な人たちに対して、アプローチをすることも考えて、市民オーケストラとしての価値を高めてほしい。

（委員）　音楽関係者だけの偏った事業のように感じる。せっかく古賀市に市民オーケストラがあるのだから、かかった経費に見合う収入を確保できるよう、もっと、一般の方に対して、広くアピールすべきではないか。

（委員）　定期的に開催されており、入場者も増加傾向で、市民の認知度は上がってきていると思う。ただし、団員が増えたことの影響で入場者が増えている状況では、団員関係者だけの身内のものになりつつあると危惧する。市のイベントなどで演奏を行うなどして、関係者以外の人にアピールする必要があるのではないか。

（委員）　当初は入場者が少なく評価も低かったが、この 3 年間で入場者も増えており、発展途中の段階であると考える。定期演奏会と銘打ってはいるものの、客演のほうが多く、入場客も一般の方が少ない状況であり、企画や内容にも工夫が必要である。市民に関心を持ってもらえる内容に方向転換したほうがいいのではないか。

（委員）　市にオーケストラがあること自体は評価できるし、今後もがんばっていただきたい。将来の自立に向けては、方向性を定めるべきであると考える。入場料を取って、収入を上げるのは重要だが、障害者については招待券を配るなどして、演奏を聴いてもらう機会をつくることを考えてもいいのではないか。

（委員）　音楽に興味を持っている人は、古賀で開催されているから来ているだけで、単に演奏を聞くだけなら、古賀でなくてもよい。古賀で開催するからには、古賀市民に広く知ってもらうような展開を図ってもよいのではないか。障がい者や高齢者施設、学校を訪ね、それぞれのニーズにあった形で、文化的な要素を持たせた演奏を行うことで、大きなオーケストラではできない、市民オーケストラならではの価値を持たせることでき、自立の方向に向かうことにつながるのではないか。

④事　業　名：夏休みこども体験教室
　実施団体名：特定非営利活動法人古賀市文化協会
　補助実績額：212,000 円（補助申請額：212,000 円）

＜質疑応答＞

（委員）　補助対象収入として計画していた参加料を対象外経費に優先して充てた経緯や理由は何か。

→（事務局）　前年度も同様に対象外経費に充てている。制度上、どの収入をどの経費にあてるかまでは、規定していない。

→（委員）　対象外経費に優先して充てるのであれば、当初の計画時に示すべきであった。今後、留意すること。

→（委員）　前年度も同様の指摘をしていたにもかかわらず、制度的には問題がないにしても、同様の処理をしたことに対する団体の姿勢に違和感が残る。

（委員）　対象外経費はどのようなものか。

→（文化課）　ボランティア謝礼的なもので、弁当代や交通費を含む支払いであると聞いている。

→（委員）　源泉徴収が発生していることはないか。また、ＮＰＯ法人であるため、元々は経費として考えていなかったものを、収入があったから支払ったということであれば、利益を配当することに当たらないか、危惧するが、いかがか。

→（事務局）　補助対象事業をどう処理しているかわからないが、参加費とは別に材料代などを収入しており、団体としては、一連の経費を別に計上しているのではないか。後日、団体に確認したい。

＜委員のコメント＞

（委員）　自主財源を捻出してでも、事業を継続したい意図が感じられる一方、見込みの甘さが見受けられる。人気の高い講座がある一方、日本文化を伝承する講座への参加者が少数であるなかで、実行委員会形式にして、講師料や会場代を負担してまでやりたい人のみで継続するとなると適当ではない。実施する側の負担が大きくなりすぎると、継続が困難になるので、もう少し計画性を持たせるべきだ。

（委員）　事業を継続するかどうかは、財源を団体がどう考えるかによるだろう。参加費については、再検討する余地がある。

（委員）　文化芸術の振興の点では評価できるが、費用に見合う収入を得るという財政面での課題がある。キャンセル待ちがでるほどの人気の講座は、参加費を上げてもよいのではないか。

（委員）　材料代などの実費を含め、500 円以上負担している講座でも参加者が少ないわけではない。実施する団体としては、参加費が安いほうが参加者を集めるのは簡単だが、継続して実施するためには、財源を現実的に分析する必要がある。

（委員）　参加費を一律に 100 円としているが、参加者の年齢に幅があるので、年齢によって差をつけることを検討してもよいのではないか。

（委員）　子どもだからといって、一律に参加費を安くする必要はなく、受益者負担を冷静に分析する必要がある。実施年度や講座によって価格を変えて、テストマーケティングをやると、参加人数や参加者アンケートによる反応を分析することができたのではないか。また、民間の講座での価格を調査するなどして、適正な価格設定をすることも検討していただきたい。今後は実行委員会形式で実施するとのことだが、一人一人の講師に任せるのではなく、財政面でも文化協会でしっかり主導することが重要である。

⑤事　業　名：古賀市「第九」演奏会 実施団体名：古賀市「第九」実行委員会 補助実績額：473,000 円（補助申請額：473,000 円）

＜質疑応答＞

（委員）　事業を継続するにあたり、財源をどう考えているのか。

→（文化課）　ソリストにかかる経費を節減したり、参加者によるチケット販売を強化したりして、財源を確保するようだ。

（委員）　参加者、入場者数が減少した原因をどう考えているか。

→（文化課）　団体とも協議をしたが、原因を特定することができなかった。

（委員）　入場者数とチケット販売数の差異は何か。

→（文化課）　中高生及び招待は無料としたためである。

（委員）　マンネリ化を課題としているが、どう対処するのか。

→（文化課）　二部構成で、第二部にて「第九」を演奏しており、第一部の内容をニーズにあったものにしていくことを検討しているようだ。

（委員）　まず、合唱指導にかかる報償費が月ごとに違う理由は何か。また、合計金額が多額ではないのか。次に、団体同士のチームワークがうまくいっていないと感じた要因は何か。最後に、アンケート結果に小さい子どもに対する苦情が散見されるが、何か手立てはないのか。

→（文化課）　合唱指導の報償費については、月ごとに練習回数が違うことによるものである。プロとして活動されている方なのでそれなりに金額がかかるが、他のソリストよりも安価に対応してもらっている。チームワークについては、合唱団とオーケストラによる実行委員会形式で、元々は別の団体であることもあり、深く干渉しないためにうまくいかない部分があった印象である。小さい子どもについては、団体としてもぜひ来てほしいと考えており、入場制限は行っていない。ホールには防音の母子室を備えていることから、今後は利用を勧めたい。

＜委員のコメント＞

（委員）　そもそも「第九」を演奏することを目的としたものなので、マンネリ化については、対処が難しいのではないか。営業努力の問題や、著名なソリストを招いたが効果が上がらなかった点については、補助金を出したことの弊害であると考えられる。実行委員会形式で実施しているのであればこそ、成果についての分析や課題への対応を真摯にやってほしかった。今後は、実行委員会に対して補助金を出すこと自体も見直す必要があると考える。

（委員）　3年間補助を受けていながら、年々参加者、入場者とも減少しているのは、非常に残念。単に補助金がもらえたから、有名な人を呼んで実施しただけの印象。減少の原因を追究し、根本的に事業を見直すべき。

（委員）　アンケートの結果からはよい演奏会であったことが伺えるが、結果的に規模が縮小してしまったのは、補助金に頼ってしまい、努力を怠ったことによるものではないか。下がってしまったチケット販売ノルマを上げるのは、これまで以上に厳しいものとなるが、恒例行事として定着してきているようなので、しっかりがんばってほしい。

（委員）　報告書を見るとよかった点しか記載されておらず、課題の分析や今後の方向性の検討などが見当たらないので、今後の活動に不安を感じる。補助を得ている間に、やるべきことがなされていないのが、残念である。

（委員）　市で「第九」を実施することは意義のあるものだと思うが、補助金がうまく活用されなかった印象である。前年に同様の指摘をしているにもかかわらず、現状の分析ができていないため、今度の方向性が見えてこない。

⑥事　業　名：演劇ワークショップ 実施団体名：古賀市市民劇団ＤＡＩＣＯＯＮ 補助実績額：500,000円（補助申請額：500,000円）

＜質疑応答＞

（委員）　今後の資金調達はどのように考えているのか。

→（文化課）　これまで同様、補助金を中心に運営していこうと考えているようだ。

（委員）　入場料収入について、当初の計画に対して大幅減となっているが、当初の見込みはどうであったか。

→（文化課）　大人が1,200円で590人、子どもが500円で400人を見込んでいた。

（委員）　チケット販売や公告料の減少、ワークショップ参加者数が少ないことについて、どう捉えているのか。

→（文化課）　前年度のチケット販売数減少の要因を開催日が年末だったこととし、開催日を10月に変更したが、減少を食い止めることができず、要因を見誤ったものと考える。団体としても、原因は究明できていない。広告料は、団員である子どもの保護者が中心となって活動しているため、子どもの団員の減少に連動して減少したと考えている。ワ

ークショップは、全小学校でチラシを配布しているものの参加が少ない状況で、原因は掴めていない。文化課としては、実施の方法や内容がニーズと合致していないことが要因であると考えている。

＜委員のコメント＞

（委員）　補助金や助成金に対する考え方が根本的に違うのではないか。補助金は、事業費の足りない部分を補うものではなく、補助金をあてにして事業を行うのは、そもそもおかしい。補助金を受けた 3 年間で、全く解消できておらず、厳しい評価となる。助成金を獲得する努力は見受けられるので、方向性を転換することも含め、活動を一から見直してほしい。原因分析もうまくできていないようなので、第三者を入れて検討する必要があるのではないか。

（委員）　活動内容は、古賀の歴史が題材となっており、市外の人や新しく古賀に来た人に、古賀をアピールできるので評価できるが、今後は市の補助金がなくなるため、財源が心配である。財源に頼らず、自分たちでできる範囲で活動していくことを検討してほしい。

（委員）　事業としては、古賀市の歴史がテーマとなっていることもあり、ぜひ継続してほしい。規模は小さくなっても、演じる側も鑑賞する側も意義は変わらないと思うので、収支のバランスをとって、やれる範囲でがんばってほしい。

（委員）　補助金があったため、支出を大きくしていた印象である。助成金が取れる場合には、それなりに経費をかけて、取れない場合には、収入に応じて事業の規模を設定することができる団体であることが分かった。参加者を増やして収入を上げていく努力も必要だが、経済状況に応じた支出の活動にしていくなどして事業を継続してほしい。

（委員）　演劇を実施すること自体は、演じる側も観る鑑賞する側も意義のあることだと思う。しかし、補助金を使って経費をかけて実施したにもかかわらず、参加者も入場者も少なくなった上、原因分析もできておらず、前年度の指摘と同様の結果となり、非常に残念。

（委員）　規模の大小は、団体の自立に直接影響するものではないが、補助金があるが故に、規模が過大な活動になってしまい、それに慣れてしまうことで自主運営力が低下することが懸念される。今後は補助金に頼らず、自主運営ができる範囲で活動することに注力していただきたい。

（事務局）　中央公民館の使用料について、平成 28 年度から、1,000 円を超える収入を徴収した場合には、倍になるよう改定された。本日評価を行った団体は、減免団体として登録されていることもあり、この規定に抵触しないよう、収入を 1,000 円以下に抑えていることがわかった。事務局としては、経費に見合う料金を徴収するべきだと考えているが、この減免制度について意見をいただきたい。

→（委員）　減免制度を設けている自治体は、古賀市に限らないが、仕組みを見直すべきだ。支援する目線で制度を設けたのであろうが、無理に価格を抑えることは、団体の自立を阻害することにつながる。課題解決のパートナーとして、対等な立場となるよう育成していくことが重要である。

【その他】

（委員長）　今後のスケジュール等を確認して終了する。事務局より説明願う。

（事務局）　本日の評価結果は事務局にて集計し、次回の委員会の冒頭で報告させていただきたい。次回の委員会は、6 月 23 日（金）15 時からとし、残る 3 事業を評価していただく予定。スケジュール等の詳細は追って連絡させていただく。

（委員長）　以上をもって、平成 29 年度第 2 回補助金審査委員会を終了する。

以上